

## 今号のテーマ:『輸出について』

### 1. 鮮度保持に向けた輸送技術の研究

物流部では、各産地にて生産された農畜産物について、より新鮮な状態で輸送を行うべく、弊会研究機関である農業総合研究所との連携のもと、輸送時の品質保持技術に関する調査・研究を行っております。

その中で、長期間の輸送を要する輸出に関し、鮮度保持に向けた「窒素梱包」の実証試験について、物流部・種苗園芸部および農業総合研究所と輸出を委託している日新グループと共同実証試験を実施しました。

「窒素梱包」とは、青果物を梱包したビニール内の空気を窒素ガスで置き換え、低酸素状態とし、青果物の呼吸を抑えて鮮度保持する技術です。

#### 窒素梱包について

##### (1) 窒素梱包について



ア. メロン

【窒素梱包】



果肉の軟化が抑制され、カットの際、角が立つ

イ. 人参

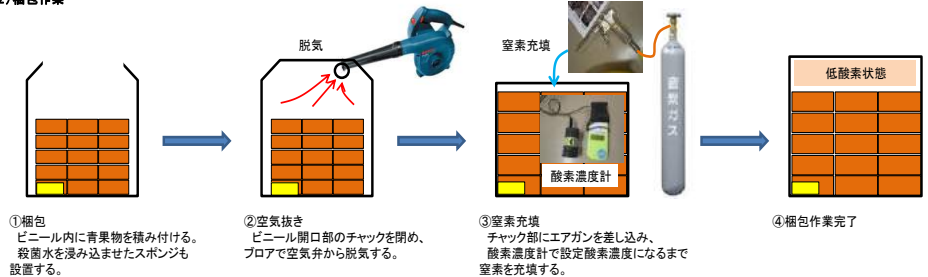
【窒素梱包】



黒変、カビの発生なし

ビニール内の空気を窒素ガスで置き換えることで低酸素状態とし、青果物の呼吸を抑え、鮮度保持する技術。

##### (2) 梱包作業



【通常冷蔵】



軟化が進み、果肉が崩れる

【通常冷蔵】



黒変、カビが発生した

#### 【農総研レポート】

窒素梱包は、通常冷蔵と比較し・・・

重量変化率：小さい  
(重量減耗が小さい)

果肉硬度 (メロン) :  
軟化が抑制されており、  
窒素梱包の方が果肉が  
しっかりしていた。

外観品質 (人参) :  
通常冷蔵では、黒変、カ  
ビが発生したが、窒素梱  
包では発生は認められな  
かった。

👉 メロン・人参ともに窒  
素梱包の効果が得られた。

## 2. 牛肉・豚肉の輸出状況について

### (1) 牛肉の輸出動向について

#### ・日本の冷蔵牛肉輸出量と主要相手国

「財務省貿易統計より」

年度	数量(t)	前年比	国名①	シェア	国名②	シェア	国名③	シェア
2015	897	127%	香港	35%	米国	20%	シンガポール	13%
2016	1,044	116%	香港	40%	米国	25%	シンガポール	14%
2017	1,564	150%	香港	28%	台湾	22%	シンガポール	21%
2018 4-8月	727	158%	台湾	30%	香港	25%	米国	15%

2017年までは香港のシェアが高かったが、BSEの影響で2001年に輸出停止していた台湾向けが昨年9月に再開し、香港を抜いて輸出先第1位に躍り出ました。台湾には火鍋文化がありステーキ用だけでなく薄切り肉も受け入れられる文化があることや豪州和牛の販売を元々しており、和牛の認知度も高く日本和牛も支持を受けたことから輸出量が一気に増加しました。しかし、輸出量が過剰になったことから現在は飽和状態になっており、競争が激しくなっています。

#### ・台湾の食品売場写真

日本と同じように薄切り肉が販売されていることから輸出部位が拡がり輸出量も多くなった。

(写真左・日本和牛, 右・豪州和牛)



### (2) 豚肉の輸出動向について

#### ・日本の豚肉輸出量と主要相手国

「財務省貿易統計より」

年度	数量(t)	前年比	国名①	シェア	国名②	シェア	国名③	シェア
2015	453	109%	香港	75%	シンガポール	14%	台湾	11%
2016	558	123%	香港	77%	シンガポール	15%	台湾	7%
2017	644	115%	香港	77%	シンガポール	17%	台湾	5%
2018 4-8月	304	105%	香港	65%	シンガポール	16%	フランス	7%

香港のシェアが圧倒的なのは、香港は在留邦人が多い都市でもあり、日本食品の需要が強いことが理由です。また、豚肉は諸外国の価格が非常に安価なことから、輸出量が牛肉ほど増えていないのが現状です。本会も香港が主な輸出先となっています。

### (3) 輸出の流れについて

輸出向けのと畜・処理施設は各国の要綱に基づく厚生労働省の認定を受けた施設に限られ、要綱に沿ったと畜・解体の実施が義務付けられています。また、食肉衛生検査員の検品や各国の動物検疫のため食肉衛生検査所からの衛生証明書の発行が必須となっています。

・(株)北海道畜産公社	牛肉	台湾	タイ	マカオ	ベトナム	UAE
北見工場の認定状況	豚肉	香港	ベトナム			

### 3. 北海道米の輸出関連について

ホクレン本所パールライス販売課が窓口となり、ホクレン通商等と連携し、東南アジアを中心に、現地販売ルートを通じて、北海道米の輸出に取り組んでいます。

具体的には、タイについては、「DAISHO THAILAND」を通じて、輸出用北海道米商品を中心に実績が伸長しており、5月末現在で約7トンの販売を行い、5月に開催の「THAI FEX」に参加する等、新規獲得を図るべく推進を行っています。

シンガポールについては、「TANESEI TRADING」を通じて、5月末現在で約8トンの販売を行っており、6月には明治屋・伊勢丹にて北海道フェアの開催や現地企業直営の「J-mart」の3号店もオープンするなど順調に拡大しています。

その他、香港・台湾・中東も含め5月末現在で合計22トンの販売を行っています。

中国については、5月にパールライス工場（石狩）が中国向け輸出指定精米工場の認可を取得し、9月29日に木徳神糧の協力のもと、第1便ゆめぴりか12トンを輸出し、出荷主代表内田会長、販売者代表木徳神糧平山社長、依頼主代表中国駐日大使館郭燕主席公使、齋藤前農水大臣、北海道高橋知事など関係者が出席し、「中国向け北海道米輸出記念式典」が開催されました。

#### 【トピックスコーナー1】

##### ● 「オホーツク農業のお仕事説明会」を実施

《ホクレン北見支所営農支援室》

オホーツク農業協同組合長会主催で、10月15日（月）に酪農学園大学（江別市）で学生向けに「オホーツク農業のお仕事説明会」を実施しました。この取組みは人材をオホーツクに呼び込み、定着させることが目的です。

当日は、第1部でオホーツク管内全体の特長などをランチを取りながら説明、第2部の「個別ブースでの相談会」では、管内7JAとホクレン訓子府実証農場の職員が、それぞれの地域の特長や就業情報、インターンシップ情報などを説明しました。

全体では女子学生を中心に86名が来場。当初の想定以上に学生の参集状況が良く、手ごたえを感じたイベントとなりました。

## 【トピックスコーナー2】

### ●1年を通じて農場で酪農を学ぶ「酪農研修生」を募集

《ホクレン訓子府実証農場》

ホクレン訓子府実証農場では、来年4月から1年間、農場での酪農研修を通じ、酪農後継者または酪農関連への就職を志している方を対象に、酪農畜産に関する必要な知識や技能を実践的に学ぶ「2019年度酪農研修生」を下記のとおり募集しています。

- 【研修期間】 2019年3月末～2020年3月末（1年間・場内全寮制）
- 【研修場所】 ホクレン訓子府実証農場（訓子府町字駒里184番地7）
- 【応募資格】 将来、酪農家または酪農関連の仕事を目指し、酪農畜産に関する知識・技能を学ぼうとする心身健康な方。高校卒業以上、経験不問。
- 【研修内容】 実践研修（乳飼養管理、搾乳、子牛哺乳育成、自給飼料栽培管理等）  
座学研修（酪農畜産に関する基礎知識）
- 【資格取得】 車両系建設機械運転技能講習、家畜人工授精師（選抜試験対策）、  
2級認定牛削蹄師認定講習、酪農ヘルパー初任者研修Ⅰ等
- 【作業日課】 実働8時間  
午前5:30～8:00 搾乳、飼料給与、除糞、子牛管理  
午前10:00～12:00 牛舎内清掃、敷料交換  
午後2:00～5:30 搾乳、飼料給与、除糞、子牛管理
- 【応募受付】 2018年11月15日まで
- 【お問合せ】 訓子府実証農場業務課 Tel0157-47-2191（担当・石沢）

## 【トピックスコーナー3】

### ●担い手向け研修会（小麦・大豆）を開催します

《ホクレン本所 営農支援推進課》

ホクレンでは、担い手生産者を対象に、「小麦・大豆」をテーマとした研修会を下記のとおり開催します。研修の目的は、①基礎知識の習得、②担い手同士のつながりの強化です。

- 【開催日時】 平成30年12月12日（水）10:40～13日（木）13:50 ※1泊2日の合宿研修
- 【受講場所】 ホクレン研修センター（札幌市東区北22条東2丁目）
- 【受講対象】 就農後、概ね5年以内の小麦または大豆生産者
- 【研修内容】 畑作における土づくり、小麦・大豆の生育と栽培管理の基本、畑作の病害虫と防除法、小麦の品質評価、小麦・大豆の販売情勢、畑作地域のスマート農業、総合討論（意見交換）等
- 【申込方法】 農協を通じて、ホクレン北見支所の営農支援室へ（0157-25-4697 林田）

★内容に関してのお問い合わせやご意見・ご感想につきましては、ホクレン北見支所 営農支援室（担当：林田）まで、メールにてお願いいたします。（アドレス：[11einousien@hokuren.jp](mailto:11einousien@hokuren.jp)）

～次号予告～

次号（平成30年度第9号）のテーマは『豆類』です。乞うご期待下さい！